

こんな職場 他にある？

なんと 西原所長の写真が200枚以上

〒18

2009. 1. 13

JR東海労東二運分会

組合員のみなさん！ ユニオン・国労組合員のみなさん！

最近に始まったことではありませんが東二輸は、所長以下管理者の写真がとてもしん貼られていると思いませんか。あらゆる通路・カベ、所内誌（家庭にも）に「これでもか」という勢いで張り出されています。特に、所長の写真の多さには驚きをとおり越して、異常さを感じてしまいます。所長が写っているものに至っては、ざっと数えても200枚以上でしょうか。（毎月の所内誌を入れるとその倍の数になります）

乗務員は在来線を含めて沢山の職場に立ち寄りますが、あの名輸所にすら管理者の写真はほとんどありません。まして、所長が満面の笑顔で真ん中に鎮座しているのを見たことはありません。みなさん、こんな職場、他にあったらおしえて下さい。ひょっとしたら世界中の、どこの職場にもないかもしれません。

目立つのは「素敵な笑顔写真コーナー」（表彰、即賞を妬んでいるわけではありません）、紹介され、歓迎される新人の前列で微笑んでいる写真、最近では「新年のご挨拶」（所長以下、三役揃い踏み）があります。

組合員のみなさん！ ユニオン・国労組合員のみなさん！

なぜこんなにも所長以下管理者の写真が貼り出されるのか疑問に思ったことはありませんか。最初に考えられるのは、**職場の上・下、主・従関係の誇示**で、例えば上司と部下、表彰する者とされる者です。そして、この上・下、主・従関係を利用した「**しがらみ**」づくりが次の手です。やさしい所長、小さなことでも見逃さずにみってくれる所長を印象強く「記念写真」を使って押し出していると考えられます。

ところで、この「しがらみ」がくせ者で一生涯「まわりついで経ちがたいもの」になるので注意が必要です。が、まだ打つ手はあります。まずは、**常に自分の意志をハッキリ伝え、一線を画しましょう。**

組合員のみなさん！ ユニオン・国労組合員のみなさん！

しがらみといえ、東海ユニオンが「しがらみを捨てて…」と言っていました、今度は所内誌1月号にも出ていました。毎年、初詣していた神社にお参りに行かなければ不幸が起こるんじゃないかという不安が「心のしがらみ」になっていた。しかし達すべき目標（ハッピーになること）としては、場所を変えてでも、敬虔な気持ちでお参りすることが大切と、何とも回りくどい話が載っていました。（詳細は所内誌1月号P59を）結果はハッピーにしてくれる、どこか別の神社にお参りに行くようで、**新たな「しがらみ」が発生**したことでしょう。

「断ち切れれば しがらみ新た 首しめる」 CD頑爺（好評につきまた一句）